

府本小149

府本小学校だより
第18号(R6.2.6)

「挑戦！えがおで
さらに一歩前進」
文責：校長 右田尚久



2月の異名といえば、「如月（きさらぎ）」が最も一般的です。如月（きさらぎ）の由来は、まだまだ寒さが厳しい時期のために、更に衣を重ね着するという意味から「衣更着（きさらぎ）」になったという説が最も有力とされています。

また、旧暦で1月から3月が春とされ、2月はその真中の月ということから、「仲春（ちゅうしゅん）」という呼び名もあります。厳しい寒さの時期を表す言葉、少しずつ春へと向かう様子を表す言葉が共存しており、季節

節が移ろい始める時期であることが感じ取れるのではないのでしょうか。実家の梅の花も咲き始めました。

2/8 ～ 2/13 解放文化祭開催



【1. 2年生作品】

【3. 4年生作品】

【5. 6年生作品】

2月8日（木）から13日（火）まで荒尾市人権啓発センターで『荒尾市解放文化祭』が開催されます。

上の写真は、そこで展示される府本小学校の子供たちの作品です。人権学習で学んだこと、考えたことを自分なりの言葉で表した作品となっています。荒尾市の全小中学校の作品が展示してありますので、是非、期間内に行かれて、子供たちの作品を見て、子供たちの学びを感じ、人権について大人も考えられる時間になるとと思います。

～五名荒尾書き初め大会入賞者紹介～

★特選：四年 門田那緒さん

★入選：二年 利光颯太くん

★入選：五年 山崎弥乎さん

★佳作：一年 行武佑湊くん

★佳作：二年 塩塚真央くん

四年 門田匠真くん

六年 井上咲寧さん

二年 岩田美羽音さん

三年 大坪蓮子さん

入賞おめでとうございます！

8月から12月までの自己評価アンケート結果

1月末に8月から12月までの本年度の全校の共通した目標であった内容について全児童にアンケートを取りました。7月にも同様のアンケートを取っていましたので、その比較をして考察しました。結果は以下の通りです。

- 「国語の授業がわかりますか」【本年度の数値目標：達成度90%】
わかる：7月…73%⇒ 1月…82.5%
- 「算数の授業がわかりますか」【本年度の目標：達成度90%】
わかる：7月…70%⇒ 1月…71.8%
- 「いつでもどこでも立ち止まってあいさつ」【本年度の目標：達成度90%】
よくできている：7月…73%⇒ 1月…76.6%
- 「自分がすき」【本年度の目標：90%】
すき、まあまあすき：7月…69%⇒ 1月…76.6%
- 「落ち着いた生活」【本年度の数値目標：80%】
よくできている：7月…63%⇒ 1月…59.3%
- 「給食を残さず食べている」【本年度の目標：90%】
ほとんど食べている：7月…89%⇒ 1月…98%
- 「全校読書量」【本年度の目標：13000冊（一人200冊）】
目標達成率：7月…50.5%（6568冊）⇒ 1月…110.7%（14,400冊）

どの項目でも、それぞれ目標を持って年間を通して取り組んできた成果が見られます。

「国語・算数の授業がわかりますか」に関しては、子供が1時間1時間の授業で「わかった」「できた」と振り返ることができる授業づくりを心がけ、その積み重ねが学力につながっています。達成度90%の目標数値には及びませんでした。全学調、県学調の正答率に数値で表れてきました。

- ◎全学調の正答率・・・国語「84%」（県平均67%）
算数「79%」（県平均61%）
（令和5年度）

- ◎県学調の正答率
（令和5年度）

	3年	4年	5年	6年
国語 (県平均)	67.6% (67.3%)	72.6% (66.1%)	88.5% (75.3%)	79.4% (67.7%)
算数 (県平均)	72.8% (74.0%)	74.2% (68.6%)	66.6% (63.3%)	88.6% (76.7%)

「あいさつ」に関しては、子供らしく元気よくあいさつをすることと、学校内、地域の方にもあいさつができるよう「いつでもどこでも誰にでも」という文言で取り組んできました。また、中学校につながるために、本年度より「立ち止まってあいさつ」を加え、児童会の総務委員を中心にあいさつ運動に取り組みました。

「自分がすき」に関しては、自尊感情が低い傾向にあるため、「何事にも挑戦し、失敗しても再挑戦」すればいいという「Trial and error」を方針として掲げ、子供たちのチャレンジを認め、褒め、励まし伸ばすよう心がけました。その繰り返しによって頑張りを受けられ、そのような自分が好きになるのではないかと考えたからです。

「落ち着いた生活」に関しては、具体的に廊下を走らないことや大声を出さないことを基準に自己評価させ、まあまあできているを加えると90%を超えています。静かな教育環境の中での学校生活を送らせる学級経営が重要であると考えます。

「給食を残さず食べる」に関しては、個に応じて食量は違いますが、食べ始めたら残さないことを習慣化させました。残菜ゼロの日がほとんどで、意識化させることが重要であることを感じました。

「全校読書量」に関しては、図書担当職員の提案により、各学年の貸出冊数をグラフ化したり貸し出した冊数をポイント化したりと子供たちが意欲を持つような新たな挑戦をしました。（図書委員会による図書だよりの発行）。本年度は13000冊（一人200冊）を目標に掲げましたが、1月末で、すでに目標を達成でき、15000冊に達する勢いです。